

女性研究者支援モデル育成事業

「グローバル社会に対応する女性研究者支援」で 私立大学で初めてのS評価を取得！

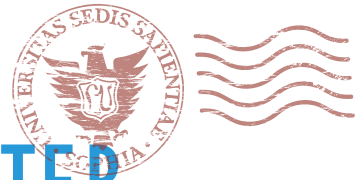
男女共同参画推進委員会委員長 総務担当理事 山岡 三治

今年の1月、半官半民の某大企業の新年会パーティに顔を出したところ、2000人を越える大人数であった。彼らは事業体の役員たちであろうが、とくに驚いたのは女性と外国人が数えるほどしかいなかったことである。そういう出席者相手だから、彼らに供される立食の献立は男性むけ、日本人むけ、ときには老人むけの食事となる。スライドを通して主催者が語る報告や新年の抱負も「生産性の向上」とか「製品の高性能」、「市場の拡大」などであり、直近の未来しか視野にないようだった。

日本は戦後の復興から少し前まではそのような体制が効果的だったのかもしれない。しかしマスコミでしばしば取り上げられているように、今では多種多様な世界に対応できていない。その理由はマニアックに高度さばかり重視し、相手の文化や民衆や個性を理解した上での努力がなされていないからでもあろう。その象徴となっているのが、女性の極端な少なさだと思う。人類は男女、家族、個性の集まりを基礎にしている。だれも欠くことなく全人類の幸福のために働かないと何かが欠如してしまう。大学が行う女性研究者支援の取り組みは手間暇お金はかかっても忍耐強く、未来の全人類に寄与する歩みでありたい。

男女共同参画推進室長 上智大学学術交流担当副学長 ユー・アンジェラ

2013年1月、本学の取組み「グローバル社会に対応する女性研究者支援」プロジェクトが、私立大学として初となる最高ランクの「Sランク」の総合評価を取得した。それを嬉しく思うと同時に、これからS評価に相応しい更なる努力と牽引力を発揮する責任を強く感じた。最近来日したノーベル平和賞を受賞したアウンサンーチー氏は、社会変革に多くの女性の参加を訴えた。4月15日に京都大学の講演会で、彼女は「女性の参画を通じて人々が幸せを感じる社会を作るべきだ」と言った。「女性には政治的なリーダーシップに加え、人を癒やす力もある」と話し、「旧軍政による独裁的思考法をより早く変えることができるのは女性だ」と語った。健全な社会作りに、ダイバーシティは欠かせないのだ。しかし、ダイバーシティを促進する道のりは、まっすぐでもなく、平坦でもない。高く評価された本学は、更に一步進むことを目指すべきだ。単なる数値達成のために女性を増やすことではなく、男女を問わずダイバーシティを強く意識するコミュニティ構築とリーダー育成は、本学を始め、先進国として、グローバル社会を目指す日本には、喫緊の課題ではないかと思う。



NEWSLETTER

上智学院 男女共同参画推進室

Office for Promotion of Gender Equality, Sophia School Corporation

June 2013 No.2

「グローバル社会に対応する女性研究者支援」

プロジェクト推進代表 上智大学理工学部長 早下 隆士

「グローバル社会に対応する女性研究者支援」プロジェクトは、初年度に理工学部を中心とするワーキンググループを整え、優秀なコーディネータを迎えたことで、2年目から本格的な活動を開始することができた。コモンスペースの設置、育児支援、グローバル・メンター制度の実施、女性研究者の国際交流推進、ネットワーク構築などである。とりわけ女性研究者比率の少ない理工学部女性教員の数を2020年までに15%に引き上げるために、毎年度の女性教員の新規採用比率を25%以上にする必要があった。数値目標を上げるのは簡単であるが、その実行には困難を伴った。少子化が進む中で大学の生き残り戦略として女性教員の必要性を訴え、理工学部教授会の理解と協力なしには、本プロジェクトの成功はなかっただろう。最終年度には、女性役職者としてユ一副学長の参加も有り難かった。今回のS評価は、本プロジェクトに関わった全員の歯車がかみ合った成果であり、全ての関係者に心より御礼申し上げたい。

「グローバル社会に対応する女性研究者支援」プロジェクト

課題推進アドバイザー 日本大学薬学部薬学研究所上席研究員 大坪 久子

私は、初めの2年間は第三者評価委員、最後の1年間は課題推進アドバイザー、グローバルメンターとして事業に係わる機会を得ました。私学として初めて事後評価Sを得られたことを心より嬉しく思います。大学の国際性を十二分に生かした国際シンポジウムやグローバルメンター制度、そこに参加する大学院生や教員の皆さんの意欲の高さ、中規模私学の理工系学部の状況を十分に考慮して計画・実行された女性採用、自主経費による男性教員への支援員配置等が特に印象深く残っています。そして事業終了に際し、今後の事業継続のための予算と体制が組まれたことを高く評価します。しかしながら、3年間にわたって他学の模範となる質の高い事業が数々実践され、制度化され、更に継続が保証されたとしても、その成果が実際に揺るぎないパワーを大学にもたらすまでには、まだまだ時間がかかるはずです。その長い道程を、大学を挙げて、当初の理念を忘れず、制度を形骸化させず、グローバル社会に対応できる女性研究者、特に理工系女性研究者の育成に向けて進んでください。また、広報は学内外に向けた事業の顔であり存在を示すフラッグです。更なる「見える化」を期待します。

第3回 女子高校生のためのSophia実験教室を開催

2013年3月9日(土)、第3回「女子高生のためのSophia実験教室」を開催し、42名の女子高校生が参加しました。実験を通じて研究の楽しさを感じてもらおうとともに、理系分野への関心を高めてもらおうと理工学部教員と在学生在が協力し、理工学部3学科全ての学びが体験できるようテーマごとに6つの実験ブースを展開。女子高校生たちは白衣に着替えて研究者に大変身。「リケジョ気分」を味わいながら楽しく実験に臨みました。

～今回実施された実験テーマ～

- ・微生物の生き残り戦略 ～裏切り者はだれだ?～
- ・色の変化を見てみよう ～呈色反応と振動反応～
- ・流れを写真に撮ってみよう ～渦のビジュアル化～
- ・発電機のシミュレーションを体験しよう
- ・コンピューターを使わないでコンピューターの原理を学ぼう
- ・スマホの電波を見てみよう

参加した高校生からは「実際に器具を使った実験がとても楽しかった」「様々な分野の実験ができて興味が広がった」という感想が寄せられました。



グローバル育成奨励賞受賞者報告

本奨励賞は、2011年度に女性研究者支援モデル育成事業終了後に創設され、理工学研究科の女子学生を対象に国際的に活躍できる研究者の支援を目的としています。



博士後期課程 理工学研究科 理工学専攻 生物科学領域1年

佐藤 有紀江

修士の研究発表を終えた翌日、マドリッドの国立生物研究所(cib)にて、二ヶ月間の研究留学を行い、細胞性粘菌を使って遺伝子の発現を空間的に観察する実験技術を学びました。慣れない英語での実験は努力と気力を必要としましたが、新しい実験結果に出会えることは刺激的な毎日でした。スペインは政府から実験停止をいつ宣告されてもおかしくない経済状況で、多くの研究者達が不安を抱えていました。しかし、好奇心に目を輝かせて毎日実験の討論をする彼らの姿に勇気もらい「研究が好き」という自分の気持ちを再確認することができました。彼らとの研究生活が博士課程後期のスタートとなったことを嬉しく思うと共に、留学の機会を頂けた事に感謝します。



菅川科学研究奨励賞 受賞！
佐藤有紀江さんは、日本科学学会による平成24年度菅川研究助成の助成を受けて行った研究課題「植物的生活史をもつ社会性アメラバの生態遺伝学的解析・柄細胞分化と利他行動」の成果を認められ、平成24年度菅川科学研究奨励賞を受賞しました。
4月26日(金)港区赤坂のZINインターコンチネンタルホテル東京で行われた研究奨励の会では、生物系部門受賞者の代表として表彰状を受け取りました。
研究の内容や成果のみならず、佐藤さんの研究に取り組む真摯な姿勢や、研究遂行のための努力が高く評価されました。

博士前期課程 理工学研究科 理工学専攻 化学領域2年

善本 由紀子

今回は、共同研究先であるスイス・バーゼル大学薬学部にて1か月の研究留学をしました。現地では、日本では行ったことがない生物実験に携わり、多くのことを学ぶことができました。更に、日本で全合成を目指している化合物を薬として実用化するためのプロジェクトに有機合成実験担当として参加しました。また、学会にも参加し、学部時代の研究テーマについてポスター発表をしました。初めての学会発表であり、日本人が私しかない状況でしたが、海外の学会の雰囲気を知り、経験を積むことができました。今回の経験から、海外の方と研究をする面白さを感じることができ、将来もグローバルな仕事に挑戦したいと思うようになりました。



RESEARCH SUPPORT PROGRAM

2013年度研究支援員利用状況

学部	男性	女性	合計
総合人間科学部	1	1	2
法学部	1	1	2
経済学部		1	1
外国語学部	1	2	3
国際教養学部	1	2	3
理工学部	3	2	5
短期大学部		1	1
合計	7	10	17

2012年度よりスタートした本制度は、研究者がワーク・ライフ・バランスを保ちながら、研究活動を行うための環境づくりを目的としており、今年度の利用者は17名、研究分野や所属する部局も多岐にわたっています。

支援対象者は女性教員に限らず、男性教員の育児参加についても積極的に支援しています。利用者には支援内容や支援によって得られた効果などをご報告いただいています。

DAYCARE CENTER

学内託児室がお引越ししました

育児との両立をサポート！



今年度4月から、2号館地下1階(B123室)に設置していた託児室が11号館104室(旧サマーセッション事務室)へ移転しました。新しい託児室にはおもちゃ・絵本も充実。今後も就業・就学と育児

の両立を支援していきます。

利用については・・・推進室HPへ » 事業所内保育所(託児室)

VOICE

研究支援員利用者の声

国際教養学部 国際教養学科 助教

渡邊 剛弘

男女共同参画推進室の研究支援員制度を利用させていただき、支援員には、図書館での資料集めやインターネット調査をお願いしました。以前は、このような調査は自分で行っていたのですが、おかげで有効に時間を作って他の仕事に集中することができました。私の家庭は夫婦共働きのため、協力しあって小さな子ども達を育てています。子どもの送迎や宿題をみるのは大変ですが、少しでも時間の余裕がうまれた事で焦らず充実した育児をすることが出来るようになりました。一般の子育て支援制度の実態は、育児の対象を母親のみに限定しており、男性の育児参加の障壁になっている事が多いように思います。本取組みは男性研究者も支援することにより、男性の育児への参画推進を実践している事が大変有益な制度だと感じています。

短期大学部 英語科 准教授

杉村 美佳

昨年の11月から研究支援員制度を利用させていただいておりまず短期大学部の杉村美佳と申します。一昨年少女を出産し、育児休業を取得後、昨年の9月に復職いたしました。復職時は、1歳児と4歳児の育児をしながら教育と研究を両立していけるか、大変不安でした。そんな折、研究支援員制度のご案内をいただき、奮りをもちいで申請させていただきました。昨年は3カ月と配置期間は短かったものの、支援員の方の熱心なサポートで、申請時に掲げていた研究目標を達成することができました。研究支援員制度は、教員が支援員のロールモデルやメンターとしての役割も担います。昨年の支援員は、大学教員をキャリア目標としている女性で、指導教員以外の教員の研究活動や教育活動の一端に参画できたことは、将来の参考になったと喜んでくれて嬉しく思いました。また、私と支援員の研究内容が密接であったため、支援員自身の研究進展にも繋がったようです。研究支援員制度により、研究の効率化が図れましたが、何より有難かったのは、時間的にも心理的にも余裕をもって育児に従事することができたことです。このような制度を設立して下さった学院と男女共同参画推進室の職員の方々には心から感謝しております。益々の御発展を期待しております。



きらめくソフィアン

理工学部物質生命理工学科の鈴木由美子准教授が、第6回「資生堂女性研究者サイエンスグラント」受賞しました。このグラントは、自然科学分野において指導的研究者を目指す女性を支援する研究助成事業。毎年10人の女性研究者が選出され、各100万円の研究助成金が贈呈されます。

本学からは同学科竹岡裕子准教授(第2回)に続いて、2人目の受賞となりました!

研究テーマは「有機触媒反応を用いた医薬品候補化合物の合成」。癌や感染症を治療する新薬の研究が高く評価されました。日本の研究者に占める女性の割合はまだ低く、女性研究者の育成に注目が集まる中、鈴木先生の研究活動は未来の科学者へのロールモデルとなることが期待されます。

鈴木 由美子 准教授
本グラント資金をさらなる研究環境の充実、研究発展のために利用し、「指導的女性研究者の育成」という本グラントの趣旨に沿うよう、研究を通して一人一人の学生の成長に心を傾けていきたいと思えます。



男女共同参画推進委員会 新体制でスタート

男女共同参画推進委員会では、これまで4つの柱となる活動を中心に、新たな課題に取り組んできました。2013年度も、以下のとおり推進体制を強化し、男女共同参画社会の実現に向けて様々な取り組みを実施していきます。

	役職・選出母体	所属	氏名
委員長	総務担当理事		山岡 三治
委員	人事担当理事		杉本 徹雄
委員	男女共同参画推進室長 上智大学学術交流担当副学長		YIU ANGELA
委員	上智大学	神学部神学科	川中 仁
委員	上智大学	文学部新聞学科	柴野 京子
委員	上智大学	総合人間科学部心理学科	久田 満
委員	男女共同参画推進室長補佐 上智大学	法学部地球環境法学科	三浦 まり
委員	上智大学	経済学部経営学科	細萱 伸子
委員	上智大学	外国語学部ポルトガル語学科	矢澤 達宏
委員	上智大学	国際教養学部国際教養学科	THOMPSON MATHEW
委員	上智大学	理工学部物質生命理工学科	齊藤 玉緒
委員	上智大学	地球環境学研究科	平尾 桂子
委員	上智大学短期大学部		狩野 晶子
委員	社会福祉専門学校		佐藤 千晶
委員	聖母大学		豊岡 美智子
委員	聖母看護学校		池本 厚子
委員	総務局長		萬崎 英一
委員	人事局長		須田 誠一
委員	男女共同参画推進室長補佐 理工学部長(前女性研究者支援プロジェクト推進代表)	理工学部物質生命理工学科	早下 隆士

お知らせ

コモンスペース(10-315室)では、国立女性教育会館(NWEC)の図書貸出サービスにより図書の閲覧・貸出を行っております。男女共同参画社会の形成に関する様々なテーマにあった図書を定期的に入れ替えており、今回は、「こころ」、「国際比較」、「持続可能な社会」、「人権」をキーワードに100冊の図書をとりそろえています。是非コモンスペースにお立ち寄りください。

